

Wモデルの実践を目指して

鈴木三紀夫

自己紹介

- 社内活動

- 業務分析をテーマに普及啓蒙活動
- 社内研修・セミナーの講師

- 社外活動

- 委員会等

- NPO法人 ソフトウェアテスト技術振興協会(ASTER) 理事
- 日本ソフトウェアテスト資格認定委員会(JSTQB) 技術委員会 副委員長
- ソフトウェアテストシンポジウム(JaSST) 東京 実行委員
- 日本科学技術連盟 ソフトウェア品質委員会(SQIP) ステアリング委員
- ソフトウェア品質知識体系(SQuBOK) 策定部会
- ISO/IEC JTC1/SC7 WG26 国内委員会 エキスパート
- 情報サービス産業協会(JISA) 要求工学知識体系策定WG
- 派生開発推進協議会 運営委員

- 雑誌

- ソフトウエア・テスト PRESS Vol.2「三色ボールペンで読む仕様書」
- ソフトウエア・テスト PRESS Vol.3～5「マインドマップから始めるテスト設計」
- ソフトウエア・テスト PRESS Vol.6～7「テストエンジニアのためのデータモデリング入門」
- ソフトウエア・テスト PRESS Vol.7～8「シナリオアプローチによる仕様分析」
- ソフトウエア・テスト PRESS Vol.4～9、総集編「ソフトウェアテスト技法道場」
- ソフトウエア・テスト PRESS Vol.10「テスト計画書のアンチパターン」

自己紹介

● 社外活動

－ 書籍

- － マインドマップから始めるソフトウェアテスト(共著)
- － ソフトウェアテスト教科書 JSTQB Foundation(共著)
- － ソフトウェアテスト入門 押さえておきたい<<要点・重点>>(共著)
- － 発注者ビューガイドラインに学ぶ失敗しない外部設計(共著)
- － 高信頼化ソフトウェアのための開発手法ガイドブック(共著)
- － 要求工学知識体系(共著)

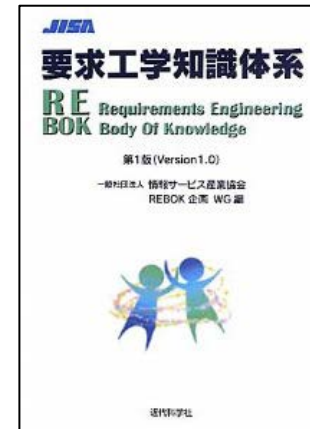
－ Web

- － テストエンジニアの視点で読み解く「発注者ビューガイドライン」(gihyo.jp)
- － 新人注目！ テストを極める最初の一步(gihyo.jp)
- － テストリーダーへの足がかり, 最初の一步(gihyo.jp)
- － だれも教えてくれなかった外部設計の「極意」(ITPro)

－ Wモデルに関する悩み相談(ソフトウェア品質の本音、SQiP)

－ 講演

- － Using MindMap for Software Testing Activities (2007 ASTA Software Testing Conference & Tut)
- － 三色ボールペンとマインドマップの活用 (JaSST'07 Osaka)
- － テストをもっと創造的に 分析・設計エクササイズ (JaSST'08 Sapporo)
- － マインドマップによるテストの分析と設計 (JaSST'09 Shikoku)
- － マインドマップを使ったテスト分析 & テスト設計 (JaSST'09 Tokai)
- － 日本科学技術連盟 SQiP研究会 ソフトウェア工学演習コース 講師(2007～10)
- － 日本科学技術連盟 SQiP研究会 ソフトウェアテスト演習コース 講師(2009～10)
- － 香川大学 特別講座 エンタープライズシステムの品質保証について(2009)
- － その他、企業のオンサイトでの講演多数



はじめに

- 本講演では、Wモデルを導入するにあたり、注意すべき事柄について述べます。

対象者

- 組織にWモデルを導入しようと考えている
プロセス改善を担当されている方
- チームにWモデルを導入しようと考えている
プロジェクトマネジャー

範囲

- 自組織、自チームのAs-Is分析を対象にしています。
- To-Be分析は、本講演の範囲に入っていません。

目標

- 参加者の自組織、自チームの現状把握ができるようになる。
- 参加者が自組織、自チームにWモデルを導入するための検討ができるようになる。

進め方

- Wモデルを導入するにあたり、
検討すべき事柄の全体像を示します。
- 次に個別のテーマについて取り上げます。

1

問題
課題

2

目的
期待効果生産性
の向上品質
の向上短納期
の実現コスト
の削減

4

プロセス
プロジェクト
マネジメント

スタイル

標準
プロセス工数
配分リソース
配分

5

人材
教育

担当者

PM

経営層

3

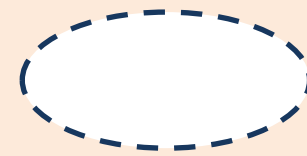
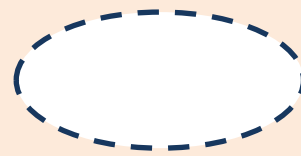
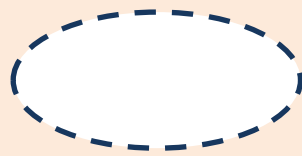
基礎

Wモデル
の定義テスト
プロセステスト
計画テスト
設計

仕様化

1

問題
課題



目的
期待効果

生産性
の向上

品質
の向上

短納期
の実現

コスト
の削減

プロセス
プロジェクト
マネジメント

スタイル

標準
プロセス

工数
配分

リソース
配分

人材
教育

担当者

PM

経営層

基礎

Wモデル
の定義

テスト
プロセス

テスト
計画

テスト
設計

仕様化

どんな問題を解決したいですか

- Wモデルを導入することで、どんな問題を解決したいのでしょうか？
- その問題を解決するのにWモデルは、最適ですか？

問題
課題



2 目的
期待効果

生産性
の向上

品質
の向上

短納期
の実現

コスト
の削減

プロセス
プロジェクト
マネジメント

スタイル

標準
プロセス

工数
配分

リソース
配分

人材
教育

担当者

PM

経営層

基礎

Wモデル
の定義

テスト
プロセス

テスト
計画

テスト
設計

仕様化

導入の目的は合意されていますか

- 何のために、どんな目的のために、Wモデルを導入したいのでしょうか？
- Wモデルを導入する目的、または期待効果について、ステークホルダー間の合意は得られていますか？

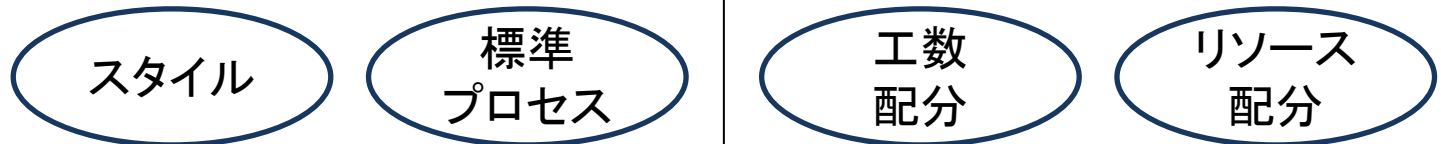
問題
課題



目的
期待効果



プロセス
プロジェクト
マネジメント

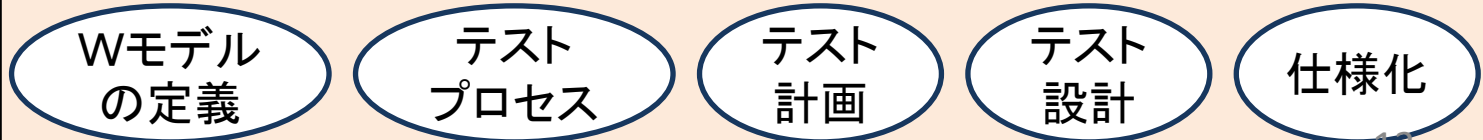


人材
教育



3

基礎

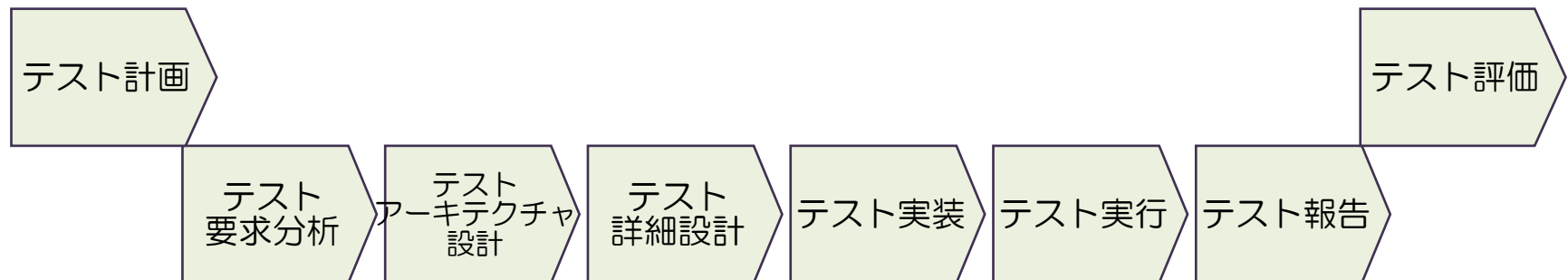


Wモデルの定義は？

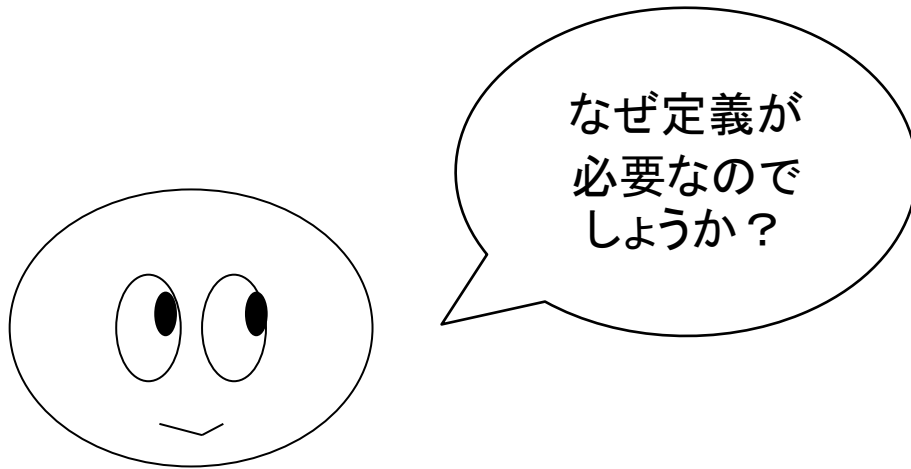
- Wモデルの定義は合意されていますか？
- 例えば
 - テスト技術を上流工程に適用すること
 - テストアクティビティを上流工程で実施すること
 - テスト技術者を上流工程から参画させること
 - テストの知見を早い段階から開発にフィードバックさせること

テストプロセスの定義は？

- 組織またはチームで、テストプロセスを定義していますか？
- どのようなアクティビティを定義していますか？

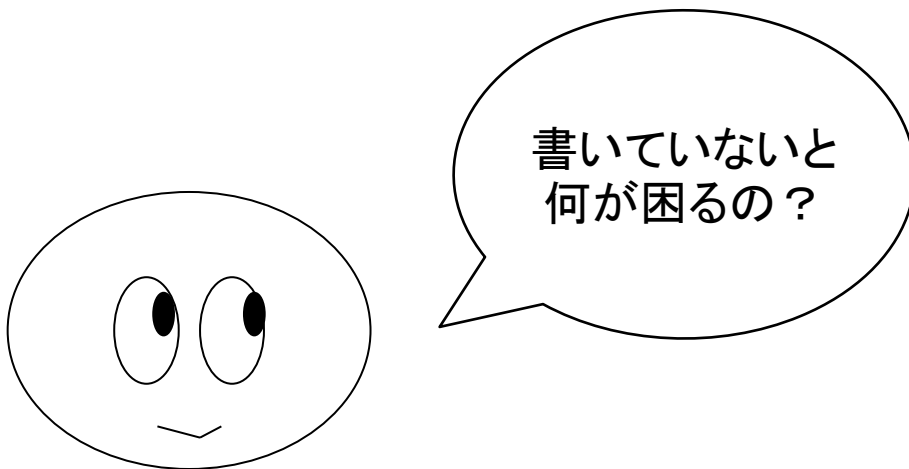


テストプロセスの定義は？



テスト計画は書いていますか

- テスト計画を書いていますか？
- 全体テスト計画（マスタテスト計画）とレベルテスト計画を書いていますか？



テスト設計の基礎は？

- 仕様書からテスト条件(テスト項目)を挙げられますか？
- テスト技法を習得していますか？

仕様化の基礎は？

- (開発の)設計と仕様化の区別が付いていますか？
- 仕様を記述できますか？

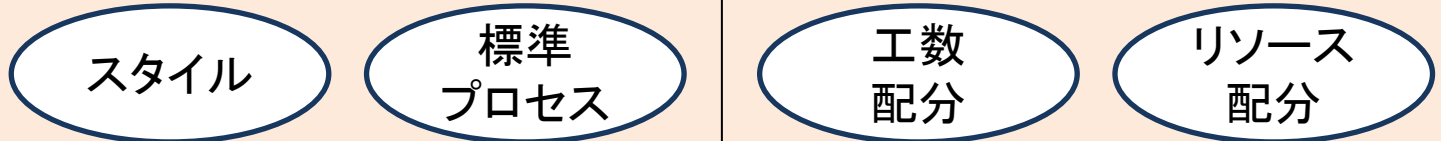
問題
課題



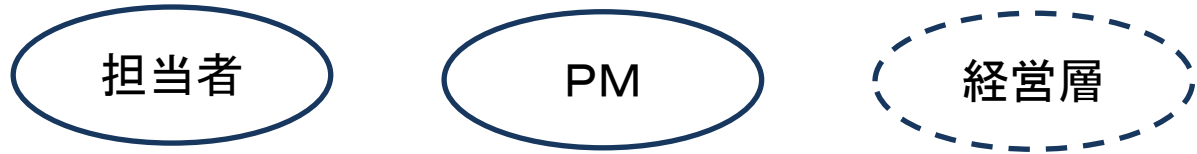
目的
期待効果



4 プロセス
プロジェクト
マネジメント



人材
教育

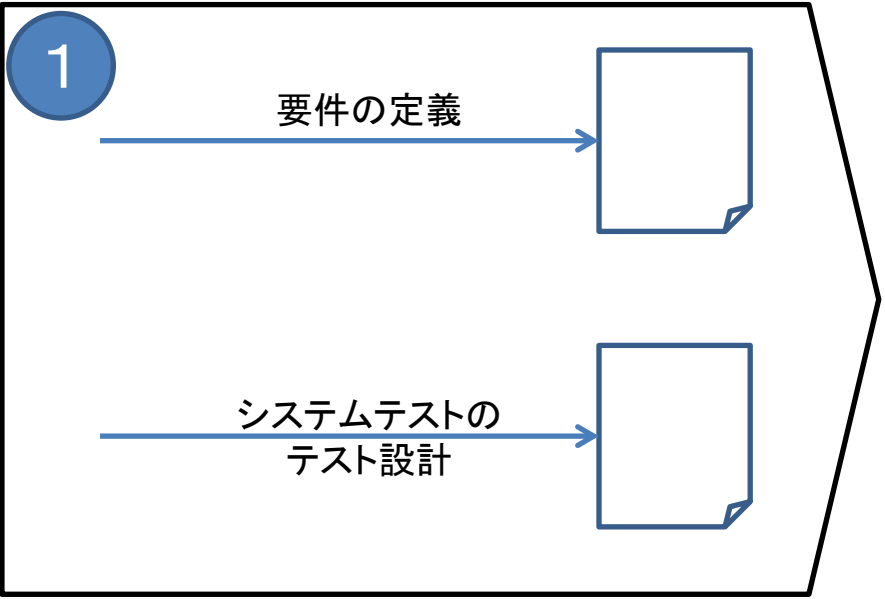


基礎

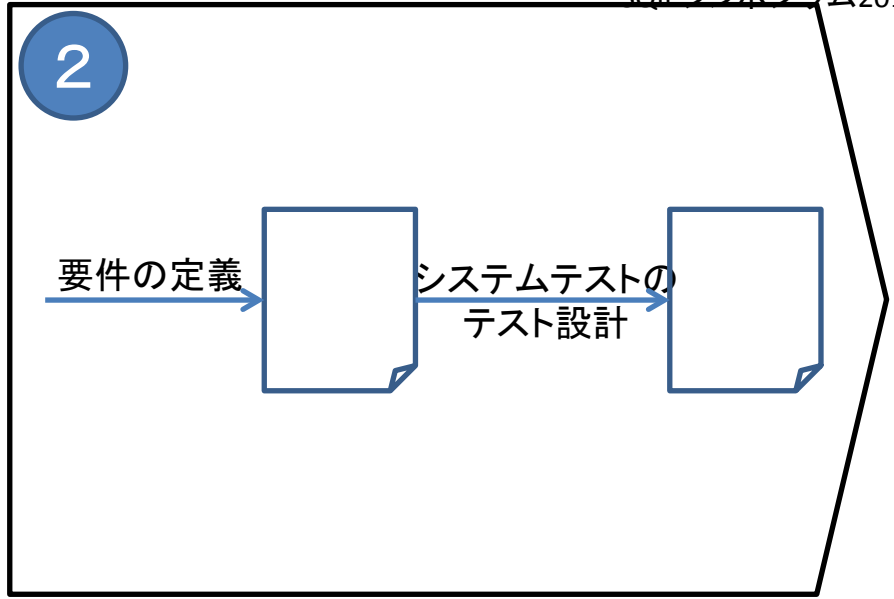


Wモデルのスタイルは？

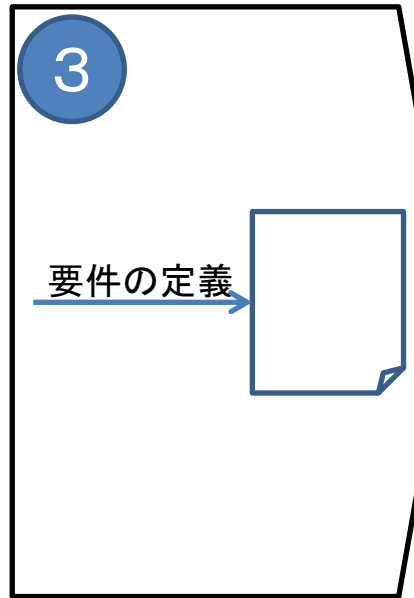
- 開発とテストが同時並行で行いますか？
- 同じ工程で、開発の後にテストを行いますか？
- テストは一つ後の工程で行いますか？



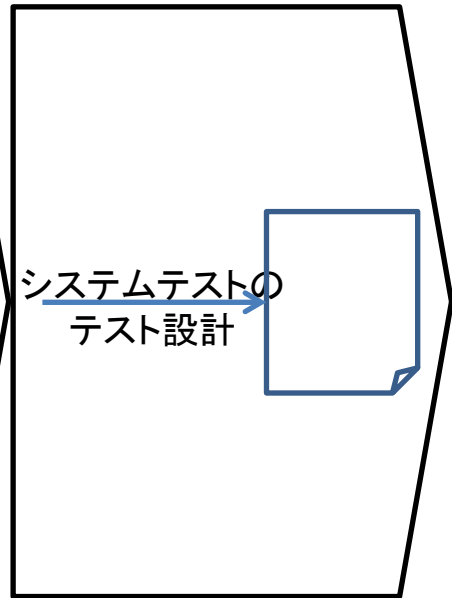
要件定義工程



要件定義工程



要件定義工程

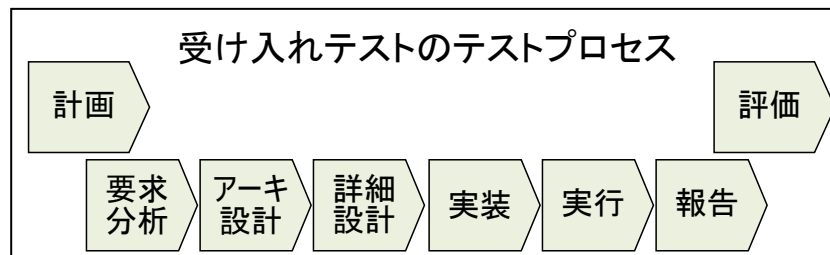


基本設計工程₂

標準プロセスは？

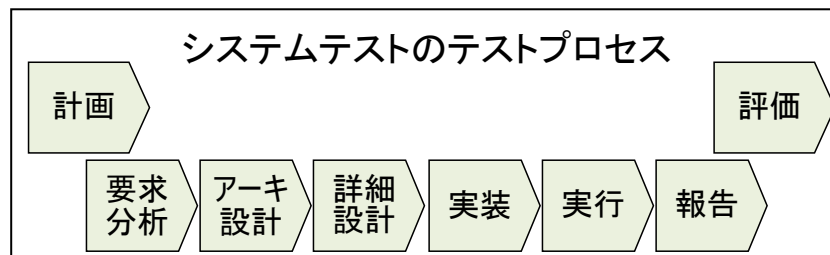
- 開発工程と、テストプロセスのテストアクティビティの関係は整理されていますか？
- テスト実装（テストケース、テスト手順の作成）は、どの工程で行いますか？

要件定義



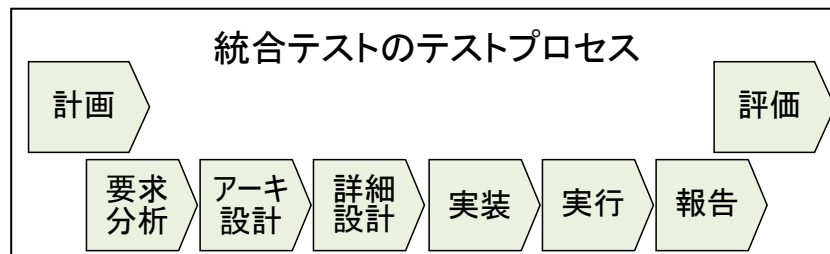
受け入れ
テスト

基本設計



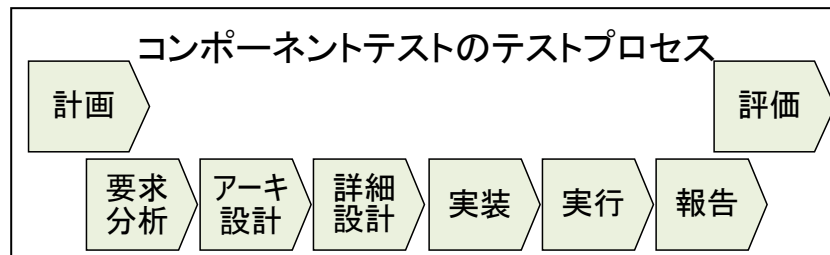
システムテスト

詳細設計



統合テスト

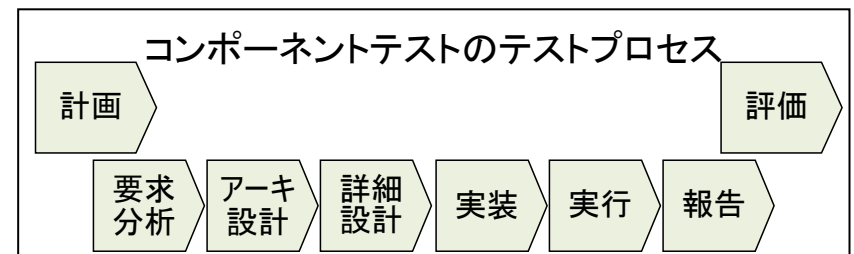
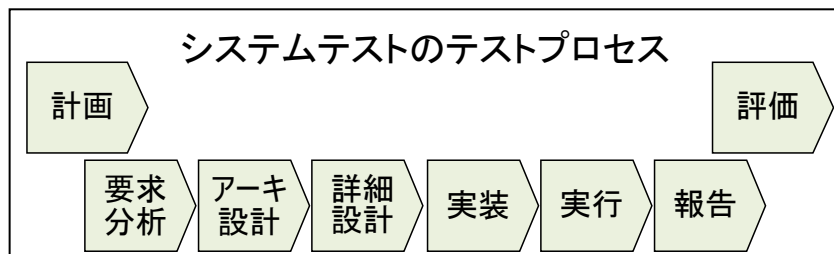
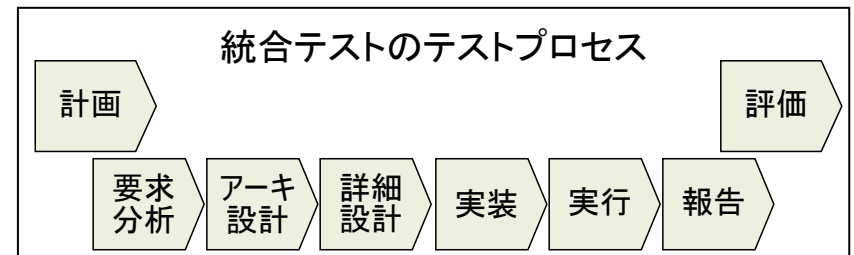
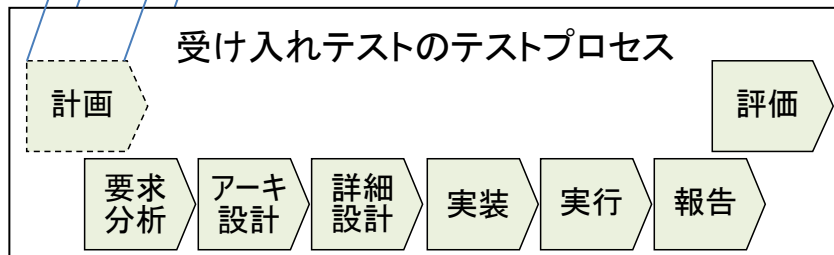
構造設計



コンポーネント
テスト

実装

工程名称	要件定義	基本設計	詳細設計	構造設計	実装	コンポーネントテスト	統合テスト	システムテスト	受け入れテスト
	計画								



	要件定義	基本設計	詳細設計	構造設計	実装	コンポーネントテスト	統合テスト	システムテスト	受け入れテスト
受け入れテスト	計画 要求分析 アーキ設計	詳細設計						実装	実行 報告 評価
システムテスト		計画 要求分析 アーキ設計	詳細設計				実装	実行 報告	評価
統合テスト			計画 要求分析 アーキ設計	詳細設計		実装	実行 報告		評価
コンポーネントテスト				計画 要求分析 アーキ設計	詳細設計 実装	実行 報告			評価

見積りをどうしますか

- コスト配分はどうしますか？
- リソース配分はどうしますか？

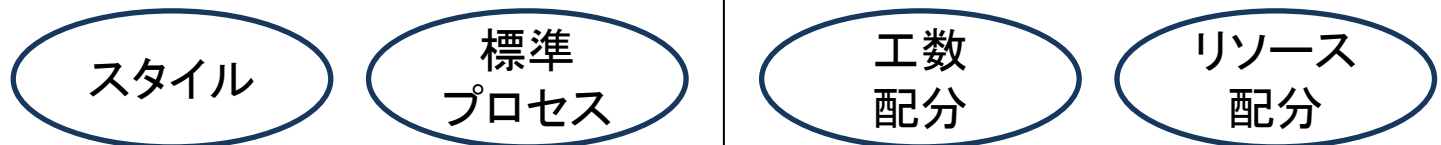
問題
課題



目的
期待効果



プロセス
プロジェクト
マネジメント

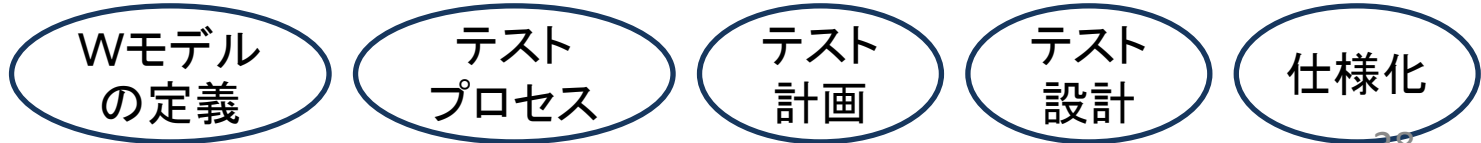


5

人材
教育



基礎



教育は？

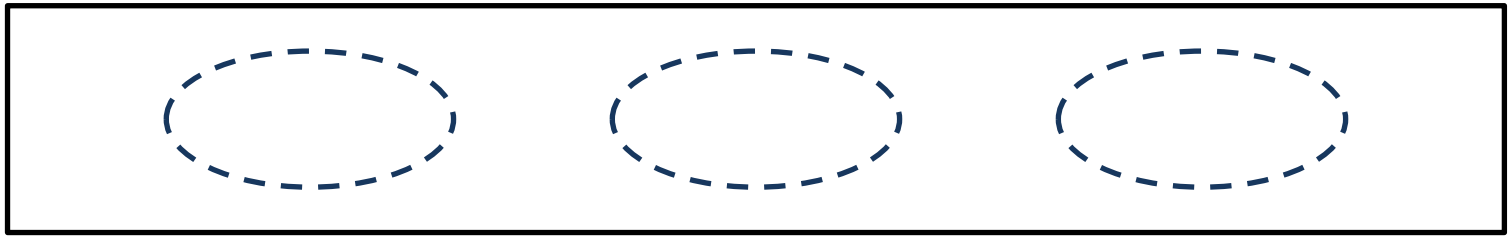
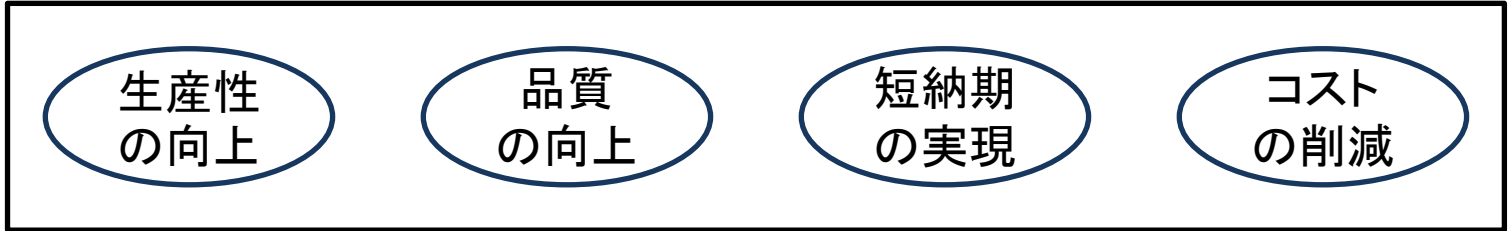
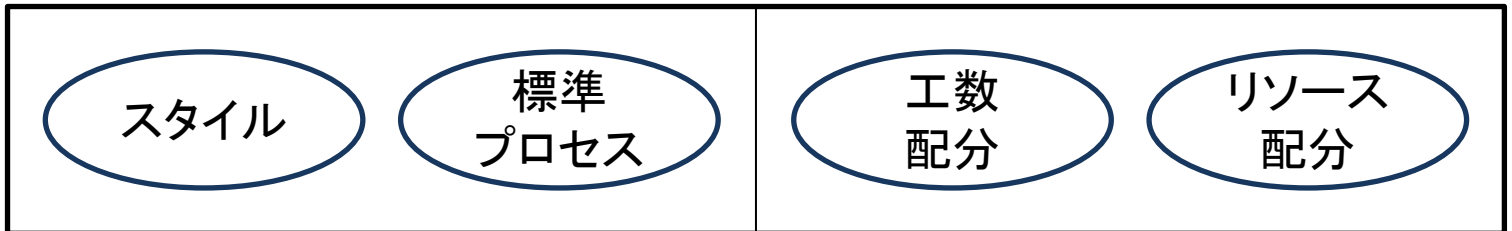
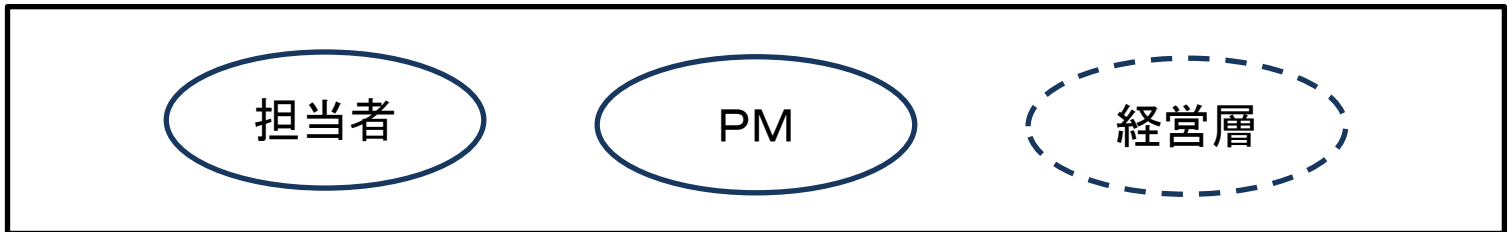
- PMに理解してもらうためにはどうしますか？
- 担当者のスキル向上の施策は？

Wモデルを実践するには

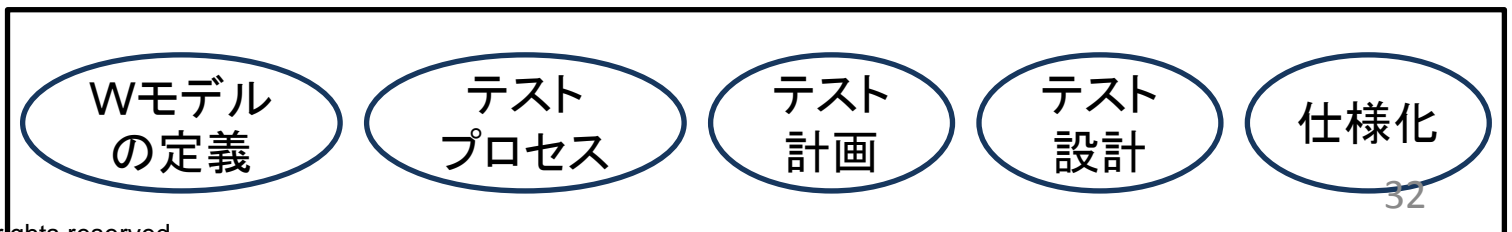
Wモデルを実践するには

- 今までの質問を参考に、現状を分析します。
- 同様に、実施すべき施策を検討します。
- 次のシートに、施策をプロットします。
- 施策間に線を引いて、シナリオを作ります。

現状

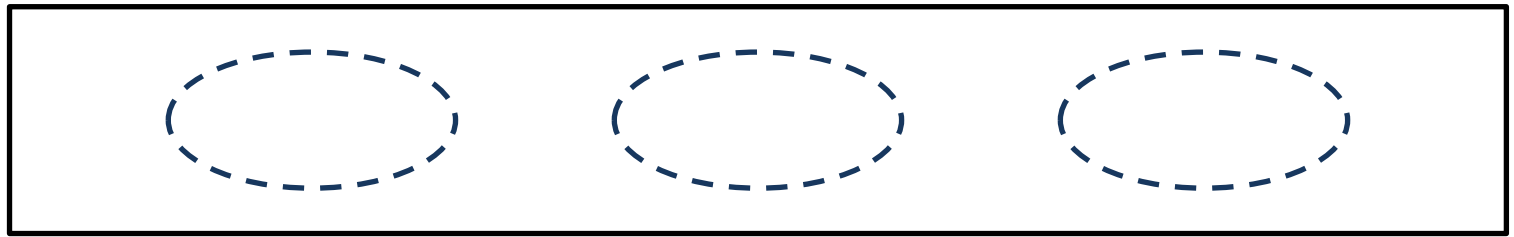
問題
課題目的
期待効果プロセス
プロジェクト
マネジメント人材
教育

基礎

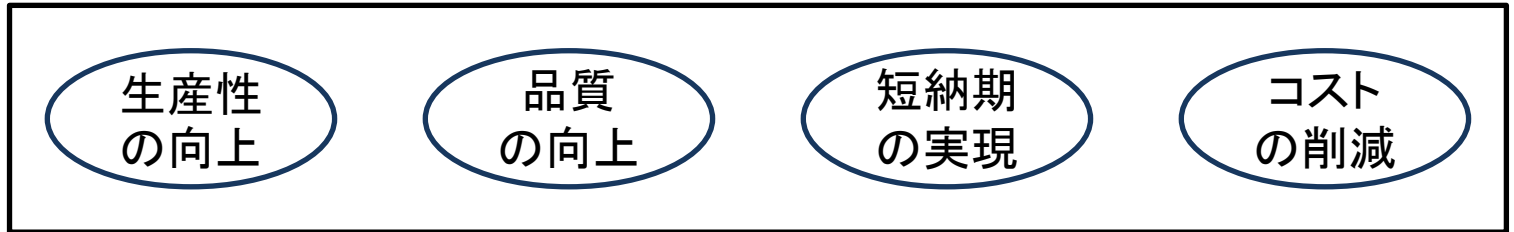


将来

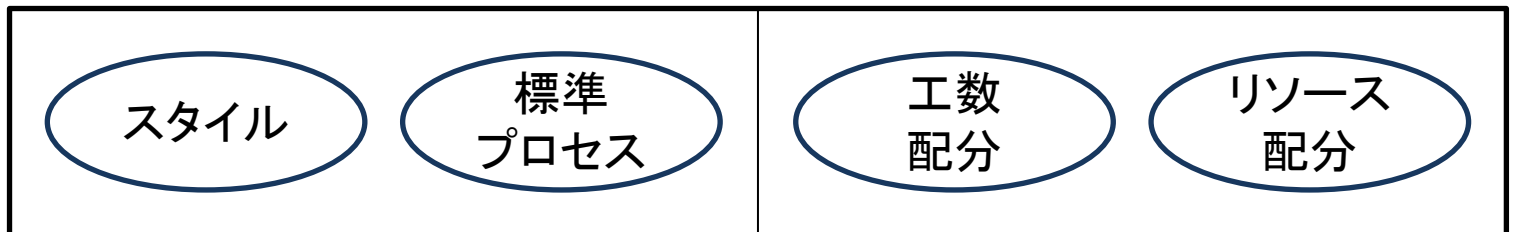
問題
課題



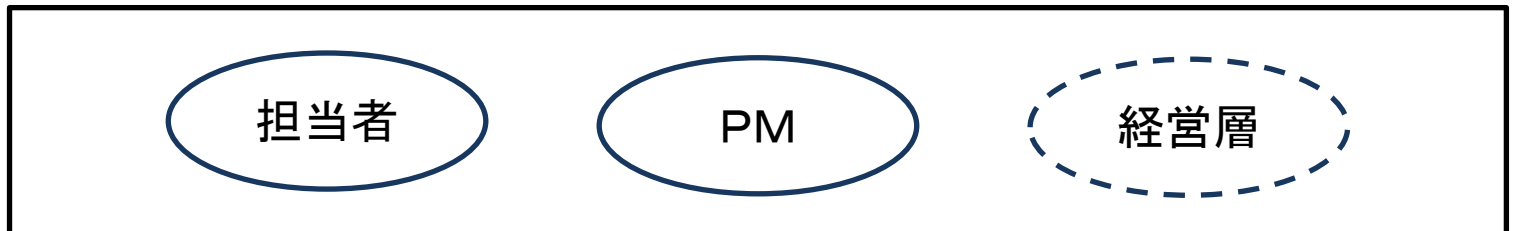
目的
期待効果



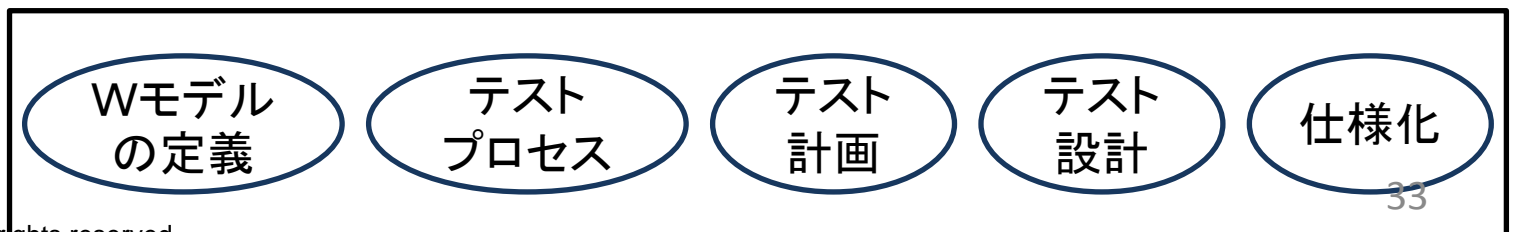
プロセス
プロジェクト
マネジメント



人材
教育



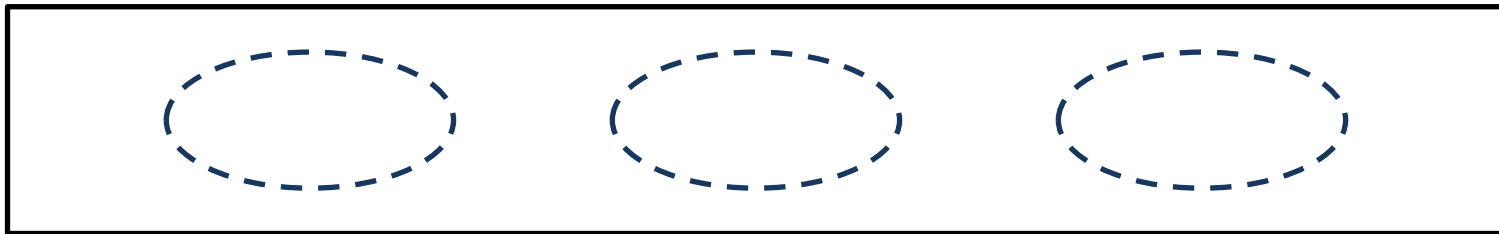
基礎



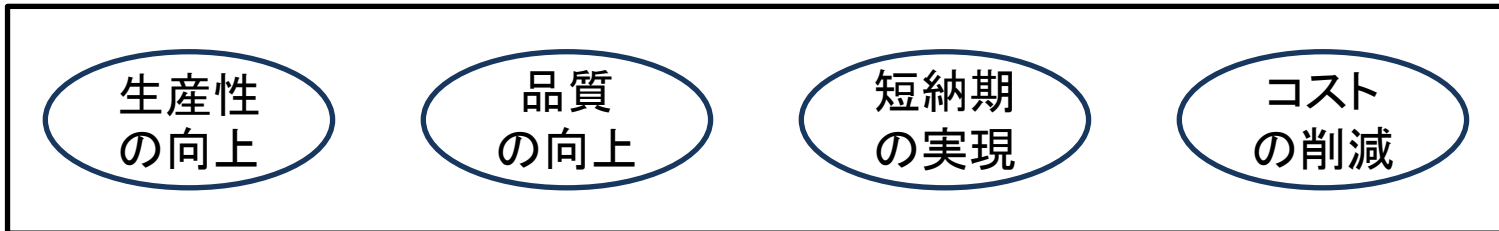
事例

- 当日、ご紹介します。

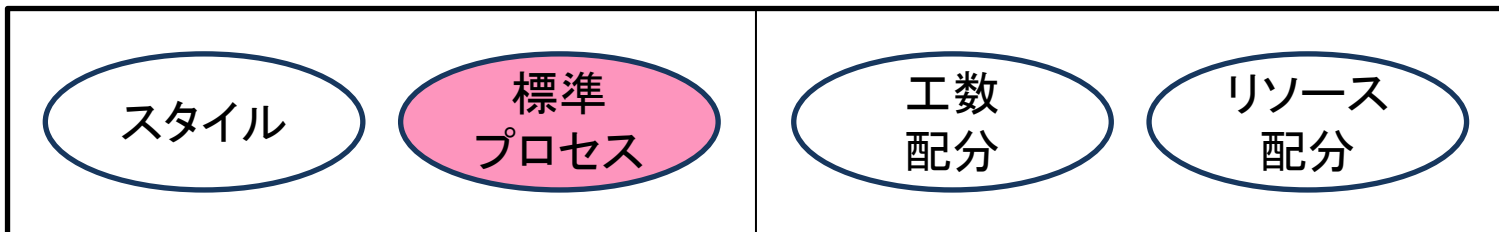
問題
課題



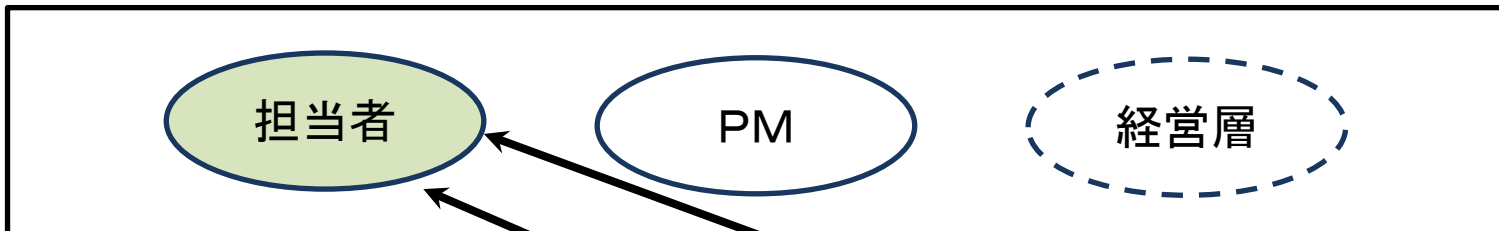
目的
期待効果



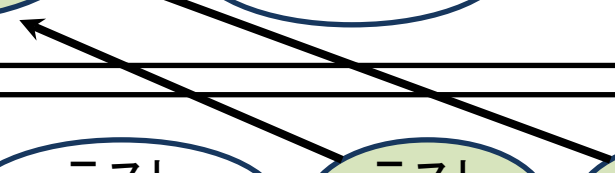
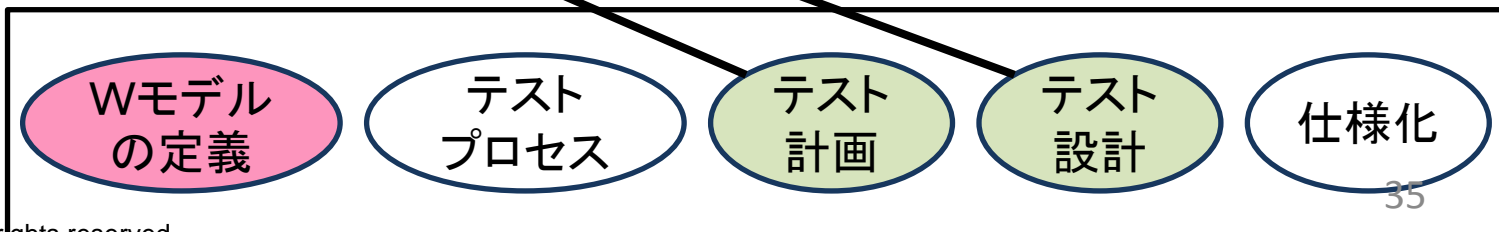
プロセス
プロジェクト
マネジメント



人材
教育



基礎



さいごに

- 潜在力があるチームにWモデルを適用すると直ぐに効果が表れます。
- 組織にWモデルが定着し、効果が表れるまで、時間がかかります。
- 組織に適用する場合、地道で根気よく愚直な活動が必要になります。

ご清聴ありがとうございました

mail: mikio.suzuki@gmail.com

twitter: @mkoszk